

タイトル	カオダイ教と政治との関わりについて		
所属	人類文化学科	氏名	村山桜子

・テーマについて

現在卒業論文のテーマとして考えているのは、ベトナムの新興宗教の1つであるカオダイ教が、とくに1930年代から1941年にかけてどのように政治勢力と関わっていたのかを調べることである。

・カオダイ教について

カオダイ教は1926年に設立された宗教で、キリスト教、仏教、儒教、道教の教義や建築物の特徴を取り入れた宗教である。南ベトナムで創始され、信者も南ベトナムに多く存在する。

初代教主はレ・ヴァン・チュンで、分派が多い。最大教派とされるのはタイニン派であり、タイニン派と他派閥との対立も存在する。

・カオダイ教と政治

カオダイ教は、設立以来フランス政府、共産党から政治的な介入や、取引を行ってきた。最もカオダイ教に影響を与えた介入には、1975年のベトナム戦争後から始まる北ベトナムに敵対していたことから起こった弾圧、そこからドイモイ政策が行われたことによる「解放」が挙げられる。テーマとして考えている年代の1941年には、宗教的指導者であったファム・コン・タックと一部の幹部らがマダガスカル島に流刑された。彼らは後にフランス政府との取引によってベトナムに帰還することになる。

1926年に設立されたカオダイ教は、30年代になると教団内部での内紛が頻発した。内紛が起こった理由には諸説あるが、カオダイ教研究者である高津茂氏のいう「外教公伝」「内教心伝」（高津2015：139）という2つの設立時から存在した流派の違いがある程度影響したのではないかと自分は考えている。しかし、この派閥について言及しているのは高津氏のみであり、多数の分派を持つカオダイ教がすべての宗派、時代でこの2派に完全に分けられるのかは怪しさも感じている。そのため、さらに様々な資料について当たる必要性を感じている。また、自分にはベトナムの歴史についての基礎的な知識に欠けていることを感じるため、東南アジアの現代史についての書籍をいくつか読み、卒論の参考にしたいと考えている。

・参考文献

高津茂

2015「カオダイ教におけるフォ・ロアンとサイ・バンーカオダイ教形成過程におけるサイ・バンを中心としてー」『人文學報』京都大学人文科学研究所, 第108号139-140

https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/204500/1/108_127.pdf